

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4271102248
法人名	特定非営利活動法人 こすもす会
事業所名	グループホームなごみ
訪問調査日	平成 20 年 10 月 15 日
評価確定日	平成 20 年 12 月 9 日
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4271102248
法人名	特定非営利活動法人 こすもす会
事業所名	グループホームなごみ
所在地 (電話番号)	長崎県長崎市琴海村松町319番地 (電話) 861-3033

評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会		
所在地	長崎県長崎市茂里町3番24号		
訪問調査日	平成20年10月15日	評価確定日	平成20年12月9日

## 【情報提供票より】(平成20年 4月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤	19 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 11.2 人

### (2) 建物概要

建物形態	併設 <del>単独</del>	<del>新築</del> / 改築
建物構造	木造	造り
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	69,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円
敷金	有( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ なし 円
	または1日当たり 900円		

### (4) 利用者の概要(平成20年 4月 1E現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	10 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80 歳	最低	65 歳	最高	101 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	大石共立病院、道ノ尾病院、真珠園療養所、サザンクリニック、高田歯科
---------	-----------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然に囲まれた静かな山の手にあり、利用者は、野菜や果物をつくり、収穫を楽しみながら、ゆったりとした暮らしを送っている。  
職員は、利用者のペースや希望にそって支援しており、起床、食事の時間を制限したり、レクリエーションへの参加を強制したりすることなく、利用者がその日その時にしたいことを大事にしている。  
また、管理者の地元であり、自治会活動に積極的に取り組んでおり、地域との交流も活発である。利用者は、日ごろから近所の顔なじみの人とお茶を飲みながら世間話をしたり、地域の集まりに出かけたりして交流を図っている。緊急時についても、近隣の3軒の地域住民に緊急通報装置を設置してもらい、協力してもらえる体制を整えている。  
「共に生き、共に暮らし、共に楽しむ」と「安全と安楽の保障、地域貢献を目指す」という理念のもと、利用者が地域の中で安心して暮らせるよう環境づくりに努めているグループホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の評価結果から、利用者一人ひとりに合った介護目標を立て、達成状況をチェックし、更に次の目標に向けて職員間で話し合うようにしており、改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、職員全員でミーティングなどにおいて、日々の支援の気づきなどについて話し合い、意見を取りまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	9月の運営推進会議は敬老会に併せて開催し、ホームの役割や活動報告、関連機関との連携体制などについて話し合いを行った。今後さらに地域住民の理解と協力が得られ、交流が図れるよう、働きかけに取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問は多く、その際に、利用者の日々の暮らしぶりなどについて報告しているほか、定期的に文書でも情報提供している。また、家族が訪問した際など、職員に気軽に何でも話してもらえるよう馴染みの関係づくりに努めている。最近家族から、利用者が運動不足のようなので改善してほしいとの要望があり、管理者と職員は改善に向けて取り組んでいる。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	管理者が地元出身であり、自治会役員として老人会活動の活性化に取り組むなど地域との関わりが深く、住民と交流する機会も多い。利用者は地域の集まりに出かけ、日常的に馴染みの人と交流を図ったり、小学生の来訪を受け入れたりしている。また、近隣の3軒に緊急通報装置を設置してもらい、日ごろから緊急時に協力してもらえるように取り組んでいる。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域で、利用者が安心して楽しく暮らすことができるように「共に生き、共に暮らし、共に楽しく」という介護理念と、「安全と安楽の保障、地域貢献を目指す」という事業所としての理念を掲げ、地域密着型サービスとして、柔軟な支援に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月のミーティングで理念について話し合ったり、日々の介護実践の中で職員同士で再確認したりするなど、管理者と職員は、常に理念を念頭に置いてケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者が地元出身であり、自治会役員として老人会活動の活性化に取り組むなど地域との関わりが深く、住民と交流する機会も多い。利用者は地域の集まりに出かけ、日常的に馴染みの人と交流を図ったり、小学生の来訪を受け入れたりしている。また、近隣の3軒に緊急通報装置を設置してもらい、日ごろから緊急時に協力してもらえるように取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果から、利用者一人ひとりにあった介護目標を立て、達成状況をチェックし、次の目標につなげていくよう取り組んでいる。自己評価は、職員全員で話し合い、意見を取りまとめた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	9月の運営推進会議は敬老会に併せて開催し、ホームの役割や活動報告、関連機関との連携体制などについて話し合いを行った。今後さらに地域住民の理解と協力が得られ、交流が図れるよう働きかけている。		

長崎県 グループホームなごみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者には、事業所側から連絡をしたり、窓口に出向いたりする機会が多い。積極的に相談や情報収集に努めて、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問は多く、その際に、利用者の日々の暮らしぶりなどについて報告している。また定期的に、請求書と併せて、行事の際の写真やホーム便りを送付して情報提供している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が訪問した際など、職員に気軽に何でも話してもらえるよう馴染みの関係づくりに努めている。最近家族から、利用者が運動不足のようなので改善してほしいとの要望があり、管理者と職員は改善に向けて取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はほとんど行っておらず、やむを得ず異動や退職がある場合には、職員同士補いあって、利用者には負担がかからないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で、毎月テーマを決めて勉強会を行っている。また、外部研修への参加については管理者から呼びかけており、希望者が順番に参加できるように配慮している。職員が参加した研修については、他の職員にも周知できるように、報告会や伝達講習会の実施等、今後の取り組みを期待したい。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は近隣の事業所と交流する機会を持っている。また、グループホーム協議会の活動や、研修会、親睦会への参加を通じて交流を図り、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居する前に事業所に訪れてもらい、他の利用者の様子や雰囲気を覚えてもらってから利用してもらうように支援している。利用者は地元の人が多く、馴染みやすい環境となっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑仕事をはじめとする日々の生活の中で、職員が利用者から教えてもらう場面などを作り、職員から利用者へありがとうと感謝の気持ちを伝えるようにしている。また、利用者の尊厳を大切にしよう言動に注意しており、ともに支えあう関係づくりに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者とのコミュニケーションの中で、その時々思いや希望を把握するようにしている。また、表情や行動からも利用者の意向を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日ごろの関わりの中で、利用者や家族から希望を引き出すように努めており、介護計画にも反映させている。また、職員はミーティングやカンファレンスにおいて、日々の支援の中での気づきや意見などを出し合い、検討して介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、定期的な見直しを行うとともに、利用者の状態変化に応じて随時見直しを行っており、現状に即した計画を作成している。		

長崎県 グループホームなごみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や利用者が希望する理美容院、図書館の利用、買い物など、職員が同行し支援している。利用者や家族の要望に応じて、柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の受診を支援している。また、急変時に備えて協力医療機関の受診や、歯科医の訪問診療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化や終末期のあり方について説明している。管理者が看護師であり、家族や主治医と相談し、全員で方針の共有に努めている。これまでに一度、ホームでの看取りを経験している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者一人ひとりのプライドを大事にし、プライバシーを損ねないよう言葉かけや対応に注意している。特に排泄や失禁の介助の時などは、他の利用者の目に配慮しながら支援している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の時間の流れは、利用者のペースや希望に合わせてゆったりとしており、起床や食事など時間の制限もない。レクリエーションなども強制せず、その日、その時の利用者の希望を大事にしている。畑仕事をしたり、近所に出かけて、お茶を飲みながら顔馴染みの人々と世間話をしたり、それぞれに楽しめるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は配食を利用しているが、朝夕は、利用者の好みや希望を取り入れ、季節の野菜を使った献立を立てている。食材の買い出しには利用者とともに出かけ、調理や後片付けなども、会話を楽しみながら一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日はユニット毎に曜日を決めて週3回設定している。利用者の体調などに配慮して調整しながら支援しており、希望によって同性介助で入浴を楽しめるよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は、野菜作りや、竹の子やふきの皮むきなどを楽しみながら行っている。掃除や台所の片付けなども、役割として職員と一緒に楽しみながら行っている。また、畑仕事をしてもらうことで帰宅願望や不安が解消された利用者もあり、毎日の水やりや収穫も楽しみごとや気晴らしになっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地元の図書館や文化センター、お祭などに出かけている。また、食材の買い出しやドライブ、近所の集まりなど、利用者の日常的な外出を支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や居室には日中鍵をかけておらず、いつでも自由に入出りができるようにしている。職員は、利用者の行動パターンを把握して、常に安全に配慮し見守りに努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員は、火災訓練や災害対策の講習を交代で受講している。年2回避難訓練を実施し、日ごろから事業所に近い3軒の地域住民に緊急時の自動通報装置を設置してもらい、理解と協力を得ている。		

長崎県 グループホームなごみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼食は栄養バランスに配慮して配食を活用している。食事や水分の摂取量は確認し、記録に残している。水分については、おやつや果物やお茶などで補給している。また、利用者一人ひとりの体調や習慣に応じて、トロミをつけたり、刻んだりして、調理方法を工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関まわりや居間のテーブルに季節の花を飾り、温かく、くつろげる雰囲気づくりをしている。居間の横には畳の部屋もあり、利用者が自由に寝ころんだり、のんびりと過ごせるスペースとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者が使い慣れた日用品や身の回りの品物を持ち込んでおり、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。また、本人の状態に合わせて部屋の模様替えの支援なども行っている。		